日本臨床睡眠医学会 Newsletter

ISMSJ

No.7 2023 2023 年 7 月 1 日発行

≪目　次≫

1. 第 14 回日本臨床睡眠医学会(ISMSJ)学術集会のご案内
2. ベストプレゼンテーション受賞者からのメッセージ
3. 新しい情報を的確に入手し利用する，そして適切に伝えるために
4. 第 14 回日本臨床睡眠医学会学術集会チラシ

発行：一般社団法人日本臨床睡眠医学会
ニューズレター委員会
委員長：立花直子
委　員：足立浩祥，中島隆敏
〒162-0825
東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル 2F
Tel：03-5206-7431　Fax：03-5206-7757
E-mail：ismsj@worldpl.jp

第 14 回日本臨床睡眠医学会(ISMSJ)学術集会のご案内

帝京大学ちば総合医療センター耳鼻咽喉科・教授
第 14 回日本臨床睡眠医学会学術集会組織委員長　鈴木　雅明

第 14 回日本臨床睡眠医学会（ISMSJ）学術集会は 2023 年 10 月 6 日（金）～7 日（土）に梅田スカイビル（大阪市）にて開催致します．現時点では現地開催の予定にて，リアルタイム live 配信は無し，オンデマンド配信については検討中です．特別講演にはカナダのブリティッシュコロンビア大学より Prof. Fernanda Almeida をお招きし顎顔面形態と小児 OSA の関係、および成人 OSA に対する OA 治療について最新の知見をお話いただきます．教育講演として 3 つ、シンポジウムとして 5 つと例年より多くの学術セッションを企画しております．スポンサードセッションは 7 つにて，秋田大学名誉教授の清水徹男先生を始め錚々たる演者の方々をお招きしております．久々に多職種の方々同士対面で語り合っていただき、また Almeida 先生とも交流していただきたいと思います．初日に懇親会を学会場である梅田スカイビルにて準備しております．事前予約制となりますが奮ってご参加下さい．

学術集会のテーマを「睡眠医療　その望ましい未来」と致しました．アフターコロナの医療のあり方を模索するという意味もありますが，“睡眠”の認知度が医療界，国民、マスコミおよび産業界に少しずつ高まってきた昨今，正しい睡眠医療のあり方をいま一度問い直すという意味も含めております．ISMSJ 学会は純粋なる睡眠愛を持つ方々が多く集いますが，専門性の高いクローズドな会ではありません．睡眠に興味を持ち始めどんなものか覗いてみたいと思う方々も大歓迎です．様々な参加者にとって有意義な学術集会になるよう組織委員の方々とともに鋭意進める所存です．

第 14 回日本臨床睡眠医学会（ISMSJ）学術集会概要

※現地開催の予定（リアルタイム live 配信は無し）

会　　期：2023 年 10 月 6 日（金）～7 日（土）
会　　場：梅田スカイビルタワーウエスト 36 階（大阪市）
懇 親 会：10 月 6 日（金）18:30-20:30 梅田スカイビルタワーウエスト 22 階
特別講演：New approaches to oral appliance therapy
　　Prof. Fernanda Almeida（University of British Columbia, CA）
組織委員長講演：OSA における解剖学的要因の再検討
　　鈴木　雅明（帝京大学ちば総合医療センター耳鼻咽喉科）
シンポジウム 1：多職種連携を活用した併存性睡眠関連疾患の診療を考える
シンポジウム 2：医療現場で必要な睡眠情報の適切な理解と活用
シンポジウム 3：神経疾患のレム睡眠の謎に迫る
シンポジウム 4：小児の OSA の課題・未来
シンポジウム 5：睡眠観察への回帰
教育講演 1：学会と学術集会に関するリテラシー・睡眠医学教育の目指すべき姿
教育講演 2：PSG の脳波を極める
教育講演 3：CPAP titration 失敗例に学ぶ
プログラムなどの詳細は随時 HP にて案内していきます．．

ISMSJ 学術集会ベストプレゼンテーション受賞者からのメッセージ

受賞者：川名ふさ江（ゆみのハートクリニック）

少し時間はたっていますが，2021 年の第 12 回 ISMSJ 学術集会より，ベストプレゼンテーション賞が設けられています．栄えある最初の受賞は，ゆみのハートクリニックの川名ふさ江先生の発表された「体幹仰臥位における頭位側方捻転による呼吸イベント抑制」となり，翌年の第 13 回 ISMSJ 学術集会の懇親会の席で授賞式が行われました．

今回の Newsletter では，川名先生にインタビュー形式でこの発表に至った過程や後進の方々へのメッセージをお聞きしました．

問１：この発表内容の take home message は何でしょうか？

PSG 解析時にどのような状態で呼吸イベントが起こるのか，それはレム依存や体位依存に代表されるのは事実ですが，解析終了時にはもう一度トレンドグラフを確認してください．レム睡眠と仰臥位時の呼吸イベント出現に矛盾があると思ったら，ビデオ画像で頭位（頭の向き）を確認することで，その矛盾を説明できるかもしれません．

問２：この研究に取り組もうとしたきっかけについて教えて下さい.

日々SAS 患者の PSG 解析をされている技師の皆さん方は，仰臥位で呼吸イベントが多発している症例でも側臥位では呼吸イベントが抑制される，つまり体位依存性の無呼吸症がかなり多く存在することはご存知だと思います．調べてみるとスイスのある地方で行われた疫学調査の結果，SAS と診断された症例の 75%が体位依存性だったとのことです．

このように頻繁に遭遇する体位依存性症例のなかでも，同じ仰臥位にもかかわらず，あるタイミングから突然呼吸イベントが消失する症例があることに気づきました．そしてビデオ画像を見ると，体幹は仰臥位なのに頸部を捻転させていることがわかりました．過去の報告を調べてみると，既に 10 年前に頭位捻転で SAS 重症度が変化することが，論文として報告されていたのです．それなら自分たちでも，頭位変化で AHI が変わる症例がどれだけあるのか，調べてみることにしました．

幸い頭位を計測できる装置を作成してくださる方がいらして，ご協力をいただけたことがこの研究の大きな礎になっています．

問３：演題としてまとめるまでのご苦労や，楽しかったことなど今後発表を考えている方達に参考になることがあれば教えて下さい.

基本的に体位依存性無呼吸症が対象となると考えていたので，PSG 記録で終夜仰臥位だった人を除外していたのですが（過去の報告も同様のやり方でした），それらの症例にも頭位によって AHI が変化していることがわかり，あとからデータベースを作成しなおすという苦労がありました．前例となる報告に依存しすぎると，視野が狭くなってしまいます．やはりオリジナリティ（独創性）が大切ですね．

また頭位センサも検査前に傾きの校正をしても，寝ている間にセンサの位置がずれて，正しい角度を表示できないこともあり，そのようなときはビデオ画像をみて修正するという作業が追加されました（結構大変でした）．

体幹体位とは別に頭位センサを追加で装着することは，体に装着されるものがますます多くなり，患者さんにとっては不快なことかもしれません．そこで今後の展望ですが，ビデオ画像の自動判定ができるのではないかと思っています．AI にとって，その画像判定は得意分野だと聞いたことがあります．画像から首の傾斜角度を自動判定してもらえたら，それはまた貴重な情報になると考えています．

問４：口演発表となりましたが，スライド作製や発表時に意識されていることが何かありますか？

慣れない口演発表は，制限時間のこともあり，つい原稿を早口で読んでしまいがちですが，聴講者に少しでも理解してほしいという姿勢を示すことが大切です．発表原稿は文章にせず（文章を作るのが面倒なだけかもですが・・）箇条書きにして，自分の言葉で話すことをこころがけています．でも制限時間が気になり，最後は早口になって話忘れたこともしばしばですが・・．ですから話忘れないように，またスライドを見ただけでも理解してもらえるように，スライドには説明を入れるように意識しています．

問５：今後，睡眠についてどういう活動に取り組んでいきたいかについて教えて下さい.

PSG が睡眠検査の Gold standard であるという言葉はよく耳にしますが，その実 PSG を技師がマニュアル判定しても，その一致率は大変お粗末な数字であると言わざるをえません．同じデータを複数の技師で解析した技師間一致率は，85%超えたら御の字という現状，つまり 1 晩 1000 エポックの解析に 150 エポックは不一致でも仕方がないのです．また，同じデータを 1 人の技師が日にちを空けて 2 回解析した場合の個人内一致率も，90%いけばよい方だと言われています．またこれらの数値は，正常例のデータの場合であって，疾患例となるとさらに低い数値になってしまいます．こんな時，学習した AI なら毎回同じ結果が出せるのかもしれません．

第 13 回 ISMSJ 学術大会の教育プログラム 2 で「AI 時代における PSG 解析の品質管理」というテーマで河合先生と村木さんがお話されていました．PSG 解析の仕事を AI に奪われると危惧する技師さんも多数いると思いますが，PSG 解析における AI の応用は意外と進んでいませ

ん．つまり PSG マニュアル解析の不安定な情報をいくらAI に教えても，AI は混乱するばかりで正しい結果を出すことができないのです．AI の教師データに一貫性がなければ，AI も学習できないことになります．

PSG を Gold standard として位置付けるためには，技師が協力して積極的に PSG 判定について情報交換する機会を作ること，また PSG 精度管理を組織的に行うなどが必要だと考えています．それらに協力できる機会があればぜひ協力させていただきます．

【追加のご報告】

この発表をもとにさらにデータを追加して，どのような症例に頭位依存性があるのか，またレム睡眠との関連など，きちんと統計解析をして，後輩が睡眠学会で発表，そこでもベストプレゼンテーション賞をいただくことができました．論文発表も準備中です．

新しい情報を的確に入手し利用する，そして適切に伝えるために

津田緩子（九州大学病院口腔総合診療科）

連日のように ChatGPT の話がニュースを賑わし，もはや人は情報を検索したり調べたりする能力は不要になるという風潮も感じなくもない昨今．睡眠に関わる人必須の情報リテラシーのお話です．

ユネスコは情報リテラシーを「To seek, evaluate, use and create information effectively to achieve their personal, social, occupational and educational goals（個人的，社会的，職業的，教育的な目標を達成するために効果的に情報を探し，評価し，使用し，制作する）」能力と定義しています（Reading the past, writing the future: Fifty years promoting literacy. UNESCO 2017, p15）．

私が大学院生だった 2000 年代前半，論文の検索やダウンロードの Web 利用は可能でしたが，紙媒体のみという医学雑誌もまだ多かった時代です．読みたい論文が自分の大学に収蔵されていないと，他大学への依頼が必要で手元に届くまで数週間ということも多々あり．一方，論文を投稿しようと思うと 2−3 部の査読用コピーを含めた原稿を準備し雑誌社に郵送していました．論文がアクセプトされるまでに国際便で送って，手書き（！）で査読された論文が送り返されてくるまで数カ月，修正をしてまた送り返されるまで数カ月という今では考えられないような時間を要していました．

牧歌的ともいえるような時代に不自由を感じることも多かったですが，そんなスピードと手間がかかっていただけに，今ほど大量の雑誌や本そしてインターネット情報が玉石混淆することもありませんでした．本や医学論文ということであればそれなりのプロセスを経ているわけで，現在よりは質が担保されていました．また読み手も網羅的に論文検索をしてゆっくり咀嚼する余裕があったように思います．それがここ 10 数年の間で環境は激変し，質の担保されていない，でもその真偽やレベルの見分けは困難という情報があふれるようになってきました．中には悪意や意図をもって巧みに脚色され，読者の判断を歪めるような情報もあり危険な状況だと思っています．伝統のある専門性の高い分野を専攻していれば，良質な教材が充実し，身近に先輩や同僚がいて，論文の読み方，書き方についてトレーニングを受ける機会も得やすいでしょう．しかしながら，特に睡眠のように医療系の枠にとどまらない多職種が関わる分野では，溢れる情報量は膨大，質はピンキリ，でも自分のスキルを磨くのは難しい！！　そうなると情報を適切に評価したうえで，そしてなにより自分が不正確な情報の担ぎ手とならないよう自分の意見や成果を的確にアウトプットするという情報リテラシーを意識することが重要になってくると感じています．

ここまでで「で，具体的に情報リテラシーってどうすればいいんだ？！」と思っていただけた方には，CRAAP テストという情報評価ツールをご紹介します．ある情報を得た時に Currency（情報の適時性），Relevance（自らのニーズに対する情報の重要度），Authority（情報の出所），Accuracy（内容の信頼性，真実性，正確性），Purpose（情報が存在する理由）という観点で，情報の内容や情報源に疑問を持ち，論理的に考察するための 5 つの質問で構成される情報評価チェックリストです．
https://library.csuchico.edu/help/source-or-information-good

ISMSJ の共通語として PSG を位置づけるように，個々人がより自信をもって有益な情報交換ができるよう情報リテラシーも意識してもらいたいと思うのです．最後に「この記事は第 14 回学術集会の教育講演の宣伝か！？」と気が付いた方，情報リテラシー初級合格です．

【WSS 年会費割引のお知らせ】

ISMSJ は World Sleep Society（WSS）の学術関連団体です．
ISMSJ 会員は WSS 個人会員の年会費支払い時に以下のクーポンコードを入力することで，年会費が 10US ドル割引されます．
クーポンコード：10OFF-2023（10 が数字，OFF が大文字アルファベット，-がハイフン，2023 が数字）

なお，割引対象は ISMSJ 会員のみですのでご注意ください．
詳しくは WSS ウェブサイト（https://worldsleepsociety.org/）をご覧ください．

The 14th Annual Meeting of Integrated Sleep Medicine Society Japan

第14回ISMSJ学術集会

日本臨床睡眠医学会

2023年10月6日（金）>>> 7日（土）

梅田スカイビル　タワーウエスト36階

睡眠医療　その望ましい未来

https://plaza.umin.ac.jp/ismsj2023

組織委員長
鈴木雅明
帝京大学ちば総合医療センター耳鼻咽喉科

事務局長
村木久恵
朝日大学病院 検査部・睡眠医療センター

プログラム

特別講演
New approaches to oral appliance therapy
Fernanda Almeida
Professor at University of British Columbia

組織委員長講演　OSAにおける解剖学的要因の再検討

シンポジウム
- 他職種連携を活用した併存性睡眠関連疾患の診療を考える
- 医療現場で必要な睡眠情報の適切な理解と活用
- 神経疾患のレム睡眠の謎に迫る
- 小児のOSAの課題・未来
- 睡眠観察への回帰

教育プログラム
- 学会と学術集会に関するリテラシー/睡眠医学教育の目指すべき姿
- PSGの脳波を極める
- CPAP titration失敗例に学ぶ

学術集会参加費

会　員	医師・歯科医師	11,000円
会　員	その他	7,000円
非会員		12,000円
学　生	（会員・非会員の区別なし）	3,000円

■第14回ISMSJ学術集会運営事務局
有限会社　あゆみコーポレーション　〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-8 日栄ビル703A　TEL: 06-6441-4918